

平成28年度事業報告書

一般社団法人日本分析機器工業会

平成28年度 事業報告書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

I. 会員の異動

会員の異動は、別紙1のとおり。平成28年度における入会は賛助会員3社、退会は正会員1社及び賛助会員5社で、会員総数は平成28年度末現在で182社となった。

平成27年度期末会員数 185社 (正会員112社、賛助会員73社)

平成28年度期末会員数 182社 (正会員111社、賛助会員71社)

II. 総会、理事会等

1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会平成28年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 日 時：平成28年5月18日(水) 15時00分～16時20分

(2) 場 所：霞山会館 牡丹の間

(3) 出席者：正会員112社のうち出席83社(うち委任状58社)

(4) 承認された議案は次のとおり。

第1号議案 平成27年度事業報告及び平成27年度収支決算書案の承認について

第2号議案 入会金・会費規程の改正について

第3号議案 役員選任について

(5) 報告案件

平成28年度事業計画及び収支予算について

2. 理事会(別紙2)

(1) 開催状況

第1回 平成28年4月14日(木) 11:30～12:30

第2回 平成28年5月18日(水) 14:00～14:50

臨時理事会 平成28年5月18日(水) 15:55～16:10

第3回 平成28年7月14日(木) 12:00～14:00

第4回 平成28年9月7日(水) 8:15～9:00

第5回 平成28年10月20日(木) 12:00～14:00

第6回 平成28年11月24日(木) 16:00～17:00

第7回 平成29年1月11日(水) 15:30~16:30

第8回 平成29年3月16日(木) 15:30~17:30

(2) 主な決定事項

- ①常設委員会正副委員長の選任の承認(第1回)
- ②平成27年度事業報告書案及び収支決算案の承認(第1回)
- ③平成28年度定時総会議案の承認(第1回)
- ④医療機器委員会負担金の見直しの承認(第1回)
- ⑤平成28年度「分析機器・科学機器遺産」認定事業の会計処理に関する覚書の承認(第1回)
- ⑥ECMI ITE ASIA SDN BHDとのMOU締結の承認(第1回)
- ⑦環境委員会副委員長の選任の承認(第2回)
- ⑧平成28年度予算書の書式の変更の承認(第2回)
- ⑨協賛名義使用の新規承認(第2回)
- ⑩計測・分析機器技術分野における国家プロジェクト提案の承認(第2回)
- ⑪専務理事の選任(臨時理事会)
- ⑫JASIS 2016開催に関する覚書締結の承認(第3回)
- ⑬2016年「分析機器・科学機器遺産」認定の決定(第3回)
- ⑭賛助会員入会申込(リアテクノロジー株式会社)の承認(第4回)
- ⑮展示会委員会正副委員長交代の承認(第5回)
- ⑯関西JASISへの取組の承認(第5回)
- ⑰分析機器・科学機器遺産に関する出版の承認(第5回)
- ⑱賛助会員入会申込の承認(ロッジュ DC ジャパン株式会社)(第6回)
- ⑲知的財産委員会副委員長の選任の承認(第6回)
- ⑳Pittcon Committee とのMOU締結の承認(第6回)
- ㉑理事・監事選任スケジュール及び立候補調査実施の承認(第7回)
- ㉒平成29年度工業会基本方針及び事業計画の重点ポイントの承認(第7回)
- ㉓正会員(株式会社大和テクノシステムズ)及び賛助会員(SMFL レンタル株式会社)入会申込の承認(第8回)
- ㉔企画戦略会議委員選任の承認(第8回)
- ㉕平成29年度事業計画及び収支予算の承認(第8回)

3. 代表者懇談会

平成29年1月11日(水) 15時30分~16時30分、パレスホテル東京で会員38社の出席を得て代表者懇談会を開催した。栗原会長挨拶の後、平成28年度事業中間報告を松浦専務理事、禰寝企画戦略会議議長から総括説明した。代表者懇談会に引き続き、240名の参加者を得て新年懇親会を開催した。

Ⅲ. 平成 28 年度において行った事業の概要

1. 分析機器に関する調査及び研究

- (1) 技術動向調査（技術委員会）
- (2) 環境関連技術動向調査（環境委員会）
- (3) 主要労働条件に関する調査・研究（労務委員会）
- (4) 知的財産権の管理推進に関する調査研究（知的財産委員会）
- (5) 分析機器の海外市場動向調査（国際委員会）
- (6) 分析機器工業に関する調査（統計委員会、事務局）
 - ・分析機器工業の経営実態調査（会員を対象に悉皆調査）
 - ・出荷額、受注額等の需給動向調査（主要正会員対象、月次）
 - ・分析機器の生産・輸出入動向調査（正会員・賛助会員対象、四半期）

2. 分析機器に関する情報収集及び提供

- (1) 分析機器の手引きの発行及び頒布（技術委員会）
- (2) 環境分析関連資料の情報収集及び会員への提供（環境委員会）
- (3) 国際水銀条約関連情報の収集及び会員への提供（環境委員会）
- (4) 分析機器に係る欧州規制等関連情報の収集及び会員への提供（RoHS、REACH、WEEE、ErP 等、環境委員会）
- (5) 人事・労務管理上の課題に関する情報交換会の実施（労務委員会）
- (6) 知的財産権の管理推進に関する会員企業相互の情報交換会の開催（知的財産委員会）
- (7) 輸出管理に関する情報収集及び会員への提供（国際委員会）
- (8) 海外規制，国内薬機法の動向に関する情報収集及び会員への発信（医療機器委員会）
- (9) 機関誌 JAIMA Season の充実（広報委員会）
- (10) JAIMA Web サイトの全面改修（広報委員会、事務局）
- (11) 各種行政情報等のコンテンツ掲載、更新、充実（広報委員会、事務局）

3. 分析機器に関する規格、基準の策定及び標準化の推進

- (1) JIS K 0117「赤外分光分析方法通則」の改正作業実施（環境委員会）
- (2) JIS K 0123 「ガスクロマトグラフィー質量分析通則」の改正作業実施（環境委員会）
- (3) 公益社団法人日本医師会実施の外部精度管理調査事業への支援（医療機器委員会）
- (4) 体外診断用医療機器の安全に関する IEC 規格の普及及び JIS 化（医療機器委員会）

4. 分析機器に関する展示会の開催

- (1) JASIS2016 を日本科学機器協会と共同開催（展示会委員会）
- (2) 新技術説明会、コンファレンスの開催（展示会委員会、技術委員会他）
- (3) 「JASIS2017」（第 6 回）の開催準備（展示会委員会）

5. 分析機器に関する講演会等の開催

- (1) 東北大学の分析機器基礎講座「素材評価学」支援（技術委員会）
- (2) 環境規制関連講演会の開催（環境委員会）
- (3) 労務・人事担当者に対するセミナー開催（労務委員会）
- (4) 知財関係のセミナー開催（知的財産委員会）
- (5) 医療機器公正取引競争規約インストラクター養成研修の実施（医療機器委員会）
- (6) 「法規制セミナー」及び「先端診断イノベーションセミナー」を開催（医療機器委員会）

6. 分析機器に関する内外関係機関との交流及び協力

(1) 政府関係機関

- ①計量法、薬機法、安全保障貿易管理令、環境公害関係法令等分析機器に関連する法令の施行及び関連する行政施策への協力並びに当該関連情報の会員への提供、周知徹底（各委員会、事務局）
- ②工業会作成統計等の経済産業省への提供（統計委員会、事務局）
- ③特許庁審査官との情報交換（知的財産委員会）
- ④経済産業省と協力し「安全保障貿易管理説明会」の開催（国際委員会）
- ⑤医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部を通じ医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動実施（医療機器委員会）

(2) 海外機関との交流及び協力

- ①Pittcon との連携（企画戦略会議、国際委員会、展示会委員会、技術委員会）
- ②BCEIA（中国）等との連携強化（国際委員会）
- ③JASIS に併催された国際コンファレンスを企画運営（技術委員会）
- ④ALDA、GAMBICA 等海外関連諸団体との交流活動の推進と連携強化（国際委員会）
- ⑤ALDA、EUROM II 等と受注統計データを交換、会員への提供（国際委員会）
- ⑥EDMA（欧州）等の IVD 工業会との交流（医療機器委員会）

(3) その他機関との交流

- ①(一社)医療機器産業連合会の活動へ参画し、工業会の意見の行政への反映を図るほか、薬機法や欧州指令等に関し会員への情報提供、調査等を行う。（医療機器委員会）
- ②体外診断用医療機器に関し（一社）臨床検査薬協会と連携、「IVD-MD の地位向上 WG」活動を実施（企画戦略会議、医療機器委員会）

7. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1) 当工業会に関係する団体主催の協賛名義、後援名義等の付与（事務局）
- (2) 分析機器に関する国内及び輸出向け団体 PL 保険制度の実施（事務局）
- (3) 顕彰等に関する事業
 - ①国、公共機関、団体等が行う叙勲、褒章、大臣表彰その他の表彰制度への候補者の推薦及び資

料作成等支援

②先端分析技術 JAIMA 機器開発賞への協力

- (4) 高校生向けサマーサイエンススクールの開催（技術委員会）
- (5) JASIS 関連情報、セミナー情報、社会性、公共性のある JAIMA 活動状況をタイムリーに発信（広報委員会）
- (6) 分析機器・科学機器遺産登録認定制度を実施。「分析機器・科学機器遺産」認定制度検討委員会（委員 6 名、分析機器工業会事務局 2 名、科学機器協会事務局 2 名により構成）を開催し、15 件の遺産認定を実施（企画戦略会議、事務局）
- (7) 工業会の社会的価値と諸活動を対外的に知らせる『工業会案内』（和英）、及び『入会のご案内』の刊行（広報委員会、事務局）

IV. 委員会活動

1. 企画戦略会議

- (1) 企画戦略会議委員にて分担し、各常設委員会に参加してモニタリングを実施。複数の委員会に跨って調整が必要な事項を企画戦略会議にて報告し必要な調整を実施。

また、正副委員長会議を開催し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。

- ・平成 27 年度事業報告を実施（第 1 回理事会）
 - ・平成 28 年度事業中間報告を実施（第 6 回理事会）
 - ・平成 28 年度事業中間報告を実施（平成 29 年 1 月 11 日開催の代表者懇談会）
 - ・第 1 回正副委員長会議開催 各委員会事業計画/予算説明（H28. 8. 30 開催）
 - ・第 2 回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告実施（H29. 2. 1 開催）
- (2) 常設委員会から提出された平成 29 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について調整し、第 8 回理事会に上程した。
 - ・平成 29 年度事業計画案を説明（第 8 回理事会）
- (3) JASIS 中期戦略検討特別委員会で JASIS の中期的課題を議論し、特に、サテライト（関西）JASIS 及びバーチャル JASIS の進捗等について理事会に報告した。
 - ・第 1 回：サテライト（関西）JASIS について（H28. 4. 28 開催）
 - ・第 2 回：サテライト（関西）JASIS, バーチャル JASIS について（H28. 6. 2 開催）
 - ・第 3 回：医療機器関連展示会とのコラボレーションについて（H28. 7. 14 開催）
（H28. 7. 14 第 3 回理事会にて関西 JASIS 企画についての委員会報告を実施）
 - ・第 4 回：JASIS2016 振り返り（H28. 10. 6 開催）
（平成 28 年 10 月 20 日第 5 回理事会にてサテライト（関西）JASIS の H30 年度開催に向けての企画具現化を承認）

- ・第5回：OSF2017の企画について、バーチャル JASIS について(H28. 12. 1 開催)
 - ・第6回：バーチャル JASIS について、JASIS 2017 特別企画について(H29. 1. 12 開催)
 - ・第7回：バーチャル JASIS について (H29. 3. 2 開催)
- (平成 29. 3. 16 第8回理事会にてバーチャル JASIS 企画の H29 年度開始を承認)
- (4) 将来のライフサイエンス分野の動向理解とニーズ深耕や、IT との融合による次世代の分析機器関連ビジネスモデルの検討を行うため、工業会若手メンバーで研究会活動を実施した。
- ・第1回：キックオフ (H28. 7. 1 開催)
 - ・第2回： 外部講師 (サイバー絆研究所) による ICT 技術のライフサイエンス研究に与えるインパクトに関する講演会(H28. 7. 27 開催)
 - ・第3回： JASIS2016 ライフサイエンスイノベーションゾーンの狙い、これまでの ADP 特別委員会活動成果の確認 (H28. 8. 24 開催)
 - ・第4回：JASIS2016 取組みの振り返り (H28. 9. 21 開催)
 - ・第5回：今後の研究会の進め方の議論と、医薬企業との連携可能性検討(H28. 10. 19 開催)
 - ・第6回：医薬企業とのオープンイノベーションの進め方の議論 (H28. 11. 22 開催)
 - ・第7回：医薬企業の訪問結果の共有と、今後の展開の議論 (H29. 1. 12 開催)
 - ・第8回：医薬企業研究員の参画を得て、今後の展開を議論(H29. 2. 27 開催)
 - ・第9回：委託企業への連携のための具体的な提案内容の検討(H29. 3. 22 開催)
- (5) 分析機器・科学機器遺産事業については、選定委員会を開催して 15 件を認定し、JASIS2016 において認定証授与式を行った。また、次年度 (H29 年度) の活動において、認定事業の経過および結果を書籍に纏めて配布する事を決定した。
- (6) 国内外の諸団体との連携強化については、国内は、日本臨床検査薬協会と IVD-MD 会議を 4 回開催し、情報の共有と共通課題について議論し、IVD-MD 地位向上のため、WG を 4 回開催、施策を審議した。また、JAIMA、JACRI 共催でメディア向けセミナーを企画、実施した。
- 海外の諸団体との連携強化については、2016 年の analytica で JAIMA-ALDA-EUROM II のジョイントミーティングを開催。先端診断分野、WTO 環境物品交渉などの情報交換と連携、受注統計データ交換継続。また、アジア友好協力団体(CACI、KSIIC、VINALAB 等) と連携強化、交流促進を実施した。新規にインドネシア、マレーシア、インドの団体を開拓した。

2. 技術委員会

- (1) JASIS2016 にて併催した JASIS コンファレンスの企画運営
- ・ JASIS 2016 に併催した JASIS コンファレンスの企画運営を実施し、28 団体、総計 50 セッションのコンファレンスを開催。聴講者総数 4,381 名(昨年度 4,070 名)
 - ・ 新技術説明会の企画運営を実施。発表テーマ 352 件。
聴講者総数 15,780 名(昨年度 17,500 名)

- ・新企画としてオープンソリューションフォーラム(OSF)を実施し、聴講者数 854 名を数え、JASIS2016 の集客に貢献した。

(2) 東北大学における分析機器基礎講座の開催に協力

東北大学大学院 環境科学研究科修士 1 年生 を対象として、昨年度に引き続き 4 月から 7 月までの毎週 1 回 (90 分授業)、前期の講座 (90 分 15 回の講義、2 単位) の講師を JAIMA から派遣した。受講生は 165 名。今期で 10 年目となったが大学側の予算等の事情から今年度で一旦終了することとした。

(3) 技術動向調査

OSF 企画、分析機器の手引きの企画等の技術委員会が実行する技術セミナーや技術ドキュメント作成のための各種調査活動を実施。OSF2017 のテーマと基調講演者を選定したほか、東北大学「技術基礎講座」に新講師を招へいした。

(4) 分析機器の手引き多言語化対応編集と発行

- ・「分析機器の手引き 2016」を発行し、JASIS2016 にて配布した。
- ・外部有識者を加えた編集 WG を組織して、次年度以降の内容向上・新分類・多言語化・用語統一を目指す活動を実施した。
- ・現行版 (2016 年度版) の PDF 化を完了し、今後、HP へ反映を予定している。「分析機器の手引き」の利用者から高い評価を得ており、分析機器利用者のすそ野の拡大に貢献。

(5) 高校生向け講習会の実施 (サマーサイエンススクール)

高校生向けの分析機器講習会(サマーサイエンススクール)を企画し、以下のとおり実施した。昨年度より活動内容を内外に告知するため、経産省管轄の「キャリア教育アワード」に今年度も継続して応募し、エントリー事例集にピックアップされた。本事業は、JAIMA の社会貢献活動として大変有効で、本会を通じ、高校生を中心に若者層の分析機器や分析機器業界への関心が高まった。

- ・開催日：7 月 22 日／開催場所：日本科学未来館
- ・参加者：64 名／協力会員企業：13 社

(6) 他団体・機関との連携

他団体主催の展示会や学会等にて、JAIMA 企画を実施し、JAIMA のプレゼンスを高め、JASIS への集客を図ると同時に、分析機器に関する技術動向やニーズを調査した。

- ・CPhi Japan にて、JAIMA セミナーを開催
- ・第 6 回 CSJ 化学フェスタにて産学官 R&D 紹介企画ランチョン講演を開催 (H28. 11. 14)

(7) グローバル技術普及活動

海外の分析機器関係者 (ユーザ、メーカ等) との交流の場を作り、情報収集、JAIMA のプレゼンス向上を図った。

- ・JASIS インターナショナルコンファレンスセッションの統一プロモーション

- ・P-MEC インド JAIMA セミナー実施 (H28. 11. 23 開催)
- ・Pittcon2017 JAIMA シンポジウム企画、開催 (H29. 3. 7 開催)

3. 環境委員会

(1) 規格・標準化事業の推進

- ・ JIS K 0123 「ガスクロマトグラフィー質量分析通則」の改正作業を実施し改正原案を完成した。「JIS K0117 赤外分光分析通則 (改正) が官報公示された。(H29. 3. 21)
- ・ 次年度に「JIS K 0126 流れ分析通則」の改正原案を日本規格協会と共同で作成することとし、今年度 JIS 原案作成案件として日本規格協会に応募し採択された。

(2) 他の規格・標準化事業への参画等

- ・ IEC/TC111-WG3 対応国内 WG 対応の一環として、TC111-WG3 国際会議 (6 月ソウル、10 月フランクフルト) に出席した。
- ・ JIS K 0212 分析化学用語 (光学部門) が官報公示された。(H28. 12. 20)
- ・ (一社) 日本環境測定分析協会 JIS 原案「排ガス中の一酸化二窒素分析方法」の委員会に委員を派遣し規格化に参画した。
- ・ アルキル水銀測定法国際標準化検討委員会 (ISO/TC147) に委員を派遣し規格化に参画した。

(3) JAIMA 会員への環境規制関連の情報提供

①第 1 回環境規制関連セミナー (H28. 7. 21 開催)

演題：「WTO/環境物品交渉・ITA 拡大交渉 ～状況、成果そして展望～」

講師：経済産業省通商政策局通商機構部通商交渉調整官 平塚 敦之 氏

②第 2 回環境規制関連セミナー (H28. 9. 26)

演題：「固相分離技術において分析技術に求められるもの」

講師：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) 佐藤 勝昭 氏

③第 3 回環境規制関連セミナー (H28. 12. 5 開催)

演題：【欧州規則対応緊急セミナー】『フロン排出抑制法と欧州改正 F ガス規則への対応実務』

講師：(一財) 日本冷媒・環境保全機構 上村 茂弘 氏

(一社) 日本冷凍空調工業会 笠原 秀晃 氏

④第 1 回環境規制小委員会特別セミナー (H28. 7. 27 開催)

演題：「欧州規制の最新動向」

講師：JBCE 事務局 佐々木 晋哉 氏

⑤Cate 8,9 関連工業会連絡会への参画

第 1 回 (6 月 7 日)、第 2 回 (7 月 26 日)、第 3 回 (11 月 24 日) 及び第 4 回 (1 月 30 日) の会合に出席し、入手した情報を工業会内で共有した。また、平成 28 年度セミナー実行委員会に出席し、環境セミナー2016 (1 月 31 日) 開催にも参画した。

(4) 環境分析関連資料の充実及び情報の提供

分析機器の手引きの資料編Ⅲ 関連資料の改訂を実施し、JASIS2016にて配布した。

(5) JASIS の支援

JASIS2016 運営支援及び JASIS2017 の OSF『環境規制』の企画を通じて JASIS に貢献した。

(6) 見学会の実施

他の委員会委員にも案内して見学会を2回開催した。

第1回見学会 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所(H28.6.20実施)

第2回見学会 株式会社東レリサーチセンター(H29.1.27実施)

4. 労務委員会

(1) 人事・労務に関する情報交換の実施

委員会を3回開催し、人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を実施した。

- ・第1回 春闘各社結果について情報交換(H28.5.24開催)
- ・第2回 採用活動について情報交換(H28.9.7開催)
- ・第3回 介護休業について情報交換(H28.11.29開催)

(2) 労務・人事セミナーの実施

JAIMA 会員の労務・人事担当者を対象に実務に役立つ講演会(セミナー)を開催した。

- ・セミナー名:「有期労働契約の新ルール等への対応・対策セミナー」
- ・日時:平成28年11月29日(火)
- ・講師:安西法律事務所弁護士 倉重公太郎 氏
- ・場所:工業会会議室

参加者数:33名

(3) 異業種交流の実施

他業界における人事関連制度に関する調査及び情報交換を実施した。本年度は、豊田自動織機株式会社高浜工場を訪問し、安全に対する徹底した社員教育の取組、日々の「カイゼン」の積み重ねによるさまざまな工夫や、「働き方改革」についての同社の考え方や人事の取組について意見交換を行なった。

日時:平成29年3月3日(金)

訪問先:豊田自動織機株式会社 高浜工場

先方ご担当:人事部 労政室 室長 池辺 明 氏

同 総括グループ グループ長 山村 忍 氏

5. 知的財産委員会

(1) 会員企業間の有用な知財関連情報の交換を行うため、委員会7回、小委員会10回開催した。

- ・知的財産委員会（知的財産権動向についての意見交換等）
 - 第1回知的財産委員会（シスメックス、H28.5.20開催）
 - 第2回知的財産委員会（JAIMA、H28.6.21開催）
 - 第3回知的財産委員会（沖縄科学技術大学院大学、異業種交流、H28年7.15日開催）
 - 第4回知的財産委員会（JAIMA、特許庁審査官との意見交換会、H28.9.16開催）
 - 第5回知的財産委員会（楽天、異業種交流、H28.11.8開催）
 - 第6回知的財産委員会（JAIMA、拡大講演会、H28.12.2開催）
 - 第7回知的財産委員会（JAIMA、H29.2.28開催）
- ・小委員会（産学連携における知財の取扱い、経理管理等について調査研究実施）

- 第1回小委員会（JAIMA、H28.5.30開催）
- 第2回小委員会（島津製作所、H28.6.24開催）
- 第3回小委員会（JAIMA、H28.7.22開催）
- 第4回小委員会（シスメックス、H28.8.26開催）
- 第5回小委員会（リガク、H28.9.23開催）
- 第6回小委員会（島津製作所、H28.10.28開催）
- 第7回小委員会（島津製作所、H28.11.25開催）
- 第8回小委員会（シスメックス、H28.12.22開催）
- 第9回小委員会（JAIMA、H29.1.20開催）
- 第10回小委員会（日本電子、H29.2.17開催）

（平成29年2月28日開催の第7回知的財産委員会にて活動報告実施）

(2) 特許庁との交流会を実施した。（平成28年9月16日 第4回知的財産委員会（JAIMA）にて実施）

(3) 他業種の施設訪問や講師招へいによる講演会開催を行い、他業種の知財の取扱い等についての意見交換を実施した。

- ・施設訪問
沖縄科学技術大学院大学、楽天株式会社
- ・講演会
日時、場所：平成28年12月2日、工業会会議室
 - ①演題：産学連携についての取り組み
講師：株式会社東京大学 TLO 社長 山本 貴史 氏
 - ②演題：中国電力の知財戦略
講師：中国電力執行役員知的財産部長 味能 弘之 氏

6. 国際委員会

(1) JAIMA のグローバル化

①海外友好協力団体との連携強化

- 1) JAIMA-ALDA-Eurom II ジョイントミーティングを analytica、Pittcon にて開催し、ライフサイエンスイノベーションや WTO 環境物品交渉などについての情報交換と連携の確認、受注統計データ交換継続の確認等を実施した。
- 2) アジア各国分析関連団体との協力によるフォーラム開催を実施した。
(JASIS アジアテクニカルフォーラム、中国フォーラム、P-MEC インド JAIMA フォーラム、シンガポール Food Science 2016 における JAIMA 講演)
また、アジア各国の展示会との相互出展・参加行った。(中国、韓国、タイ、インドネシア、インド、ベトナム)
- 3) Pittcon 委員会とは MOU を締結し協力関係の基盤強化を図った。
- 4) メッセミュンヘンとは、analytica 展にてミーティングを開催し、展示会発展のための意見交換を実施し、交流深めた。
- 5) 新規団体開拓としては、インドネシア/マレーシアの LabAsia 主催団体 (ECMI) と MOU を締結し、インドは現地側で検討中の段階まで交渉。

②JAIMA の海外向け情報発信と国際的なプレゼンス向上”

- 1) 中国分析機器ポータルサイト儀器信息网 (instrument.com.cn) と連携して中国企業向け WEBINAR 実施 (6 月 21 日) した。米国大使館、オランダ大使館、カナダ大使館を訪問し WEBINAR 開催提案し、来年の JASIS の PR に向けて働きかけを行った。
- 2) シンガポール Food Science 2016 にて JAIMA による講演を行った。インド製薬展示会 CPHI-PMEC India では会員企業 4 社によるインドで初めてとなる JAIMA セミナーを開催した。
- 3) Arab Lab (ドバイ) を目標に、現地調査と主催者との協議行った。

③JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

- 1) JASIS2016 勧誘のため 4 月～5 月にインドネシア、中国、韓国、マレーシア、ドイツの海外展示会に出展。JASIS2017 の勧誘活動として 9 月～3 月に中国、タイ、シンガポール、インド、米国、UAE、ベトナムの展示会に出展。
- 2) JASIS2016 勧誘のため中国、韓国、台湾、東南アジア各国 (ベトナム、タイ) の分析機器関連友好協力団体を訪問し、MOU 団体向け海外企業勧誘プログラムを用いて、JASIS への出展・来場の勧誘活動を行った。その結果、JASIS2016 の海外出展団体・企業：34 社・機関 37 小間、海外来場者 475 名 (2015:35 社、41 小間、615 名) となった。
- 3) JASIS2017 に向けて 2017 年 2 月～3 月に中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ友好協力団体訪問し勧誘活動行った。

④会員各社の連携によるライフサイエンスイノベーションなどのソリューション提供

- 1) ALDA の情報に基づき米国 AACCC コンフェレンスに初参加 (8 月)、3 月ピッツ展での ALDA とのミーティングにて、JAIMA のライフサイエンスイノベーション、バイオファーマへの取り組みを紹介し、協力連携を提案し、検討してもらうこととなった。
- 2) LSZ 海外企業 3 社、海外基調講演 3 名 (1 名はアジレント USA 本社の推薦)、米国大使館商務部の紹介で米国研究製薬工業会 PhRMA 日本支部を訪問しバイオ医薬分野での JAIMA 会員企業と PhRMA 会員企業との連携について提案し、今後、PhRMA 内の専門委員会にて検討してもらうこととなった。
- 3) 2014 年、2015 年とシンガポールにてライフサイエンス系フォーラム開催した延長線上で、Food Science 2016 において JAIMA の講演を実施しライフサイエンスイノベーションとしてのフードサイエンスへの取り組みや日本のフードサイエンス最新動向などを講演した。

⑤輸出管理に関する情報収集と啓発活動 (輸出管理小委員会)

- 1) 小委員会を 5 回開催し、外為法等の法令・政省令改正、水俣条約関連法令などの改正、運用等について情報交換及び分析機器業界として必要な対応を行った。
- 2) 安全保障貿易管理説明会を東京 (1/27)、京都 (2/17) にて開催し、各々約 140 名、約 120 名と多数の聴講を得た。

⑥海外市場における分析機器市場調査

- 1) 海外団体との会議において各国の分析機器市場データ収集、A-J-E Meeting@ analytica 展 (5 月) において各国市況報告を入手した。
なお、海外展示会出展時に入手した市況動向等調査の内容は国際委員会等で報告を行った。

7. 医療機器委員会

- (1) 医機連 (一般社団法人日本医療機器産業連合会) 各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報および資料を配布した (6 回)。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告した。
- (2) IVD-MD 会議を開催 (6 回) し、情報の共有と共通課題について議論を行った。また IVD 地位向上 WG を開催 (4 回) し、施策を審議した。臨薬協とメディア勉強会を共催した。
- (3) 臨薬協および JIRA との 3 団体動物関連委員会合同会議を開催 (6 回) し連携強化を図った。今年度は 4 つの WG を設置し活動を開始した。WG1 では「体外診断薬の届出制度導入告示案」について農林水産省と複数回意見交換を実施した。
- (4) 日本医師会、日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援するため、測定装置コード表の改訂を行い、HP に掲載 (8 月、1 月) した。新コード表の提供を日本医師会 (6 月)、大阪府医師会 (7 月)、日本衛生検査所協会 (8 月)、全国労働衛生団体連合会 (10 月)、日本臨床衛生検査技師会 (1 月)、日本総合検診医学会 (1 月) へ行った。

- (5) JIS 原案作成 (JIS C 1010-2-10 改定) の本委員会 2 回、分科会 6 回を開催し、日本規格協会で承認され、JIS の改定が実施されることとなった。2017 年度も JIS 原案作成に取り組む予定。
- (6) 医療機器国際小委員会を開催 (6 回) し、情報の共有と共通課題について議論した。JACR I と合同で IVD/MD アジアWG を開催し (6 回)、アジアビジネスの情報交換と共通課題について議論を行った。また、インドネシアの現地工業会 (GAKESLAB) との交流や市場調査を目的とした出張を計画、実施した。医機連国際政策戦略委員会、アジア分科会、国際法制分科会に委員を派遣し、その情報共有を行った。
- (7) ISO/TC212 (WG3) で臨床性能試験ガイドラインが検討中のため、H28 年 11 月 8・9 日に神戸で開催された国際会議に、ISO 等外部団体関連委員 (1 名) を派遣し、その情報共有を行った。
- (8) EDMA/AdvaMedDx/CBDL/MEDEC/IVD Australia/臨薬協が参加する GDA 会議に出席し (5 月：スイス、9 月：ブラジル、電話会議 2 回)、IVD の価値向上、特に WHO 関連のロビーイングを行う担当者の設置に係る件を議論した。その他、IMDRF や IVD に係る規制、保険償還等の状況他について情報を交換した。
- (9) メディカル・イノベーションへの取り組みの一環として、「内藤記念くすり博物館」の見学 (11 月)、「ライフサイエンスイノベーションセミナー」の共催 (3 月) を行った。JASIS にて医療機器委員会を開催し、LSZ を見学した。
- (10) MS カテゴリ検討 WG を設置して、「質量分析装置」の医療機器登録を厚労省へ要請 (10 月) した結果、一般医療機器として平成 29 年 3 月 31 日付で官報告示された。
- (11) 医療機器業公正取引協議会 分析工支部
- ・支部会：7 回開催 (4 月、6 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月)
 - ・規約インストラクター研修会開催 (8 月)、分析工支部会員 52 名/合格者 44 名 (合格率 85%)
 - ・JACLaS EXPO 2016 (9/22-24) で医療機器業公正取引規約についての周知活動を行なった。

8. 広報委員会

(1) インターネット関係

① JAIMA Web リニューアル

- ・今年度、JAIMA Web リニューアルを実施した。リニューアルによりスマートフォンやタブレット端末での表示にも適したレスポンス対応が可能となった。
- ・JAIMA Web リニューアルを通じてデザインを大幅に変更し、ユーザビリティを向上した。Web 分析総覧の登録機器写真をランダムで常に表示されるなどによりアクセス向上の工夫を施した。

② Web 分析総覧のユーザビリティ向上

Web 分析総覧は、検索機能と原稿入稿フォームの改善に取り組み、検索ワードのサジェスト機能が 10 月に実装完了し、ビジターのユーザビリティを向上した。また総覧の原稿入稿フォーム

について、JSIA 管理の Web 科学機器総覧と機器分類の入力項目を共通化することで、原稿入稿の二重登録の省力化を図った。

③JAIMA Web による情報発信

事務局の日常的な Web サイトデータの編集・更新により、情報発信の件数、タイムリーなアップデートを持続的に実施することができている。

④メルマガ「JAIMA 通信」

2015 年 7 月に創刊以来、毎月一度のペースで発行を継続し、今年度末時点で累計 21 回発行した。

(2) 会報関係

①計画通り、年 4 回の発行を実施した。

②春号 (4/20 付) において表紙デザインを一新し、全体を軽やかな表情にし、季節ごとのテーマカラーを設定し、季節感を加味した。また、121 号 (2010 年 8 月) より連載を開始し、技術系の初心者にも分かりやすい内容で読者に好評を博してきた人気コーナー「分析の原理」の平成 30 年度初めにおける後継企画の検討に着手した。当件については、平成 29 年度前半に企画を確定させる計画である。

(3) プレス関係

①プレスリリース作成

今年度は日本語 9 件 (前年度 13)、英語 9 件 (同 5) のプレスリリースを行った。特に、新たに Pittcon での JAIMA シンポジウムについての英文プレスリリースを実施した。これらによる掲載実績は、Web 媒体：218 件 (前年度 357)、広告換算 ¥1,640,902、紙媒体 40 件 (同 89) であった (アットプレス調べ、3/13 現在)。

前年度と比較してリリース件数は減少したが、英文版のリリースを積極的に制作し、JAIMA の取組みを海外に発信することに注力した。

②Facebook での拡散発信

Facebook での「いいね！」が初めてカウントされ、数は「分析機器・科学機器遺産認定事業」の記事で 132 件、「中・高校生向け分析機器体験学習」で 8 件であった。社会貢献事業など社会性の高い活動への評価が高くなる傾向が見られた。(当 Facebook への拡散はいずれも外部電子媒体のソーシャルメディア拡散の機能によるものである)

③メディアパートナー協定の締結

インドで「LABePEDIA」というラボ機器紹介媒体を発行する Global Business Promoters 社とメディアパートナーを締結する方向で検討を行っている。メディアパートナーとして締結後は、Web サイトへの相互リンクを実施する予定。

(4) 工業会案内、入会案内の作成

「工業会案内」(和・英)を平成 28 年 4 月に発行した。また、「入会案内」(和)も 5 月に発行

した。特に、「工業会案内」については、工業会が歴史的にどのような価値を持ち、社会に貢献をしているか、また今後どのような面で社会に対して新たな価値を創造することができるのかを主メッセージとして発行した。

9. 展示会委員会

(1) JASIS 委員会 (JSIA との合同展示委員会) の下に 5 つの小委員会 (展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進) を設置し、JASIS2016 の企画、準備、出展募集、来場者確保等を実施し、9月7日～9日の3日間、幕張メッセ国際展示場 (4・5・6・7・8ホール) で JASIS 2016 を開催した。「分析展／科学機器展」から「JASIS」へと名称変更後、5回目の開催となった。

・主な開催までのスケジュール

出展申込締切：H28. 3. 14 (前年度)

出展募集説明会：一般 H28. 2. 12、ライフサイエンスイノベーション H28. 2. 9 (前年度)

出展社説明会：H28. 6. 7

OSF 説明会：H28. 7. 5

・開催実績値

来場者数：24,381人／延29,376人 (昨年23,408人)

(今年から来場カウント方法を変更、各会場ごとの来場者数や延人数等の把握が可能となり、来場者動線情報を入手できた。)

・出展小間数：1,468小間 (昨年1,473小間)

昨年に5小間及ばなかったが、歴代2番目の記録となった。

・出展社数：504社 (過去最大)

・海外来場者：475人 (昨年615人) ・学生：1,024人 (昨年723人)

(2) 新技術説明会、JASIS コンファレンス (技術委員会、環境委員会他との連携事業)

新技術説明会は、352テーマ。聴講者数は延べ15,708人 (昨年17,500人) となった。

JASISコンファレンスは、過去最大規模となり、JAIMA・JSIAを含め28の学協会により50のセッションが行われた。延べ聴講者数4,381人 (昨年4,070人) となった。

(3) 特別企画

①オープンソリューションフォーラム(OSF)

JASIS展示会場において、第1回OSF (テーマ別新技術説明会) を開催した。「素材・材料の開発と品質管理が我が国のものづくり競争力を支える」をコンセプトとして、「健康・機能性食品」、「環境浄化製品」、「自動車」の3テーマごとに基調講演及び出展社によるソリューション発表を実施した。

・OSF来場者数：800人超

②ライフサイエンスイノベーションゾーン(LSZ)

昨年度までの「先端診断イノベーションゾーン」を発展させて、LSZを開催した。ライフサイエンスイノベーションに関連する基調講演や出展企業プレゼンテーションの実施に加え、関連の先端分析技術、製品等の展示スペース、商談ラウンジをゾーン内に設けた。基調講演は「先端創薬」「予防医学」「先端診断」「次世代ヘルスケア」「細胞・再生医療」「フードサイエンス」、「関連IT」分野の国内外最新研究、ビジネス動向に関する講演を実施した。

・LSZ出展 68社・機関、来場者数：9,000人超

(4) 来場者カウントシステム導入

来場者数の把握が可能な「バーコードによる来場者カウントシステム」を新たに導入し、得られた来場者動線情報等を分析し、新技術説明会、コンファレンス、展示会場で行われる各企画の評価を行い、新企画立案、現行企画の改善に役立てた。

(5) JASIS2017開催準備

平成28年11月、JASIS委員会（JSIAとの合同展示委員会）の下に5つの小委員会（展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進）を設置し、JASIS2016の開催結果を踏まえ、JASIS2017の運営体制、開催内容、スケジュールを決定した。

(6) 海外への JASIS の広報、出展勧誘

国際委員会と協力し、海外への「JASIS」浸透を図るため海外展示会における JASIS ブース等の設置やPR活動を実施した。

10. 統計委員会

(1) 生産高、輸出高、輸入高統計調査

本年度から新統計システムを導入し、正会員及び賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高の統計調査を実施した。統計委員会においては、四半期ごとの調査結果を分析し、結果を会報に掲載した。

(2) 日米欧受注統計

受注統計小委員会として、JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を推進している。

1) JAIMA - ALDA 合同受注高統計を維持管理した。35社（JAIMA 15社、ALDA9社、Eurom II 11社）の参加を得ている。

2) 以下のとおり日米欧の企業の合同統計を四半期毎に集計した。

- ①主な集計項目：ア) 世界6地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額
イ) 世界6地域における対象機種種の受注金額及び台数

②地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の6地域

③対象11機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS

④参加企業：35社（JAIMA 15社、ALDA 9社、Eurom II 11社）

V. その他の事業活動概要

1. 生産高、輸出高、輸入高の動向調査

会員を対象に統計調査を実施し、平成 27 年度合計や平成 28 年度四半期毎の集計結果の発表を行った。

2. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施した。

3. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

(1) 国際法定計量機関 (OIML) 関係委員会への協力

①OIML の国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加した。

② (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加した。

4. その他行政諸施策及び他団体事業への協力

(1) (一財)安全保障貿易情報センター (CISTEC) の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加した。

(2) 日本工業標準調査会 (JISC) の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣している。

(3) 別紙 5 のとおり、他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等に協力した。

(4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知した。

5. 工業会ホームページの充実

工業会ホームページの全体的な改修を実施し、機能性、検索性の向上を図った。

6. 分析機器に関する製品安全化事業

PL 団体保険制度の事業を推進した。

(1) 海外を対象とする「海外団体 PL 保険制度」の参加会員は 8 社。

(2) 国内を対象とする「国内団体 PL 保険制度」の参加会員は 19 社。

(3) CGL 保険 (企業総合賠償責任保険) の参加会員は 16 社。

7. 協賛名義等の使用承認

平成 28 年度は 21 件の展示会、セミナー等に対し、当工業会の協賛名義等の使用を承認した。

8. 報告書等発行

(1) 業務関係報告書

①JASIS2016 結果報告書 (和文)

②JASIS2016 FINAL REPORT (英文)

③International Conference Session , Extended Abstract (英文、CD)

④Japan Symposium , Extended Abstract(英文)

(2) JAIMA 環境規制関連セミナー&環境規制小委員会特別セミナー資料集(CD)

(3)「医療機器業公正競争規約」携帯版小冊子（ポケット版）

9. 高圧ガス保安法施行令の規制緩和対応

高圧ガス保安法施行令の規制緩和のための工業会タスクフォースを組織し、経済産業省及び一般高圧保安協会への技術説明等を実施した。

10. 委員会の開催状況

委員会の開催状況は別紙3のとおり。各委員会の「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙4に示す。

別紙1 会員の異動

1. 入会(3社)

(1) 正会員(0社)

(2) 賛助会員(3社)

平成28年4月1日 Restek コーポレーション 日本支社

平成28年10月1日 リニアテクノロジー株式会社

平成29年1月1日 ロシュ DC ジャパン株式会社

2. 退会(6社)

(1) 正会員(1社)

平成29年3月31日 ローム株式会社

(2) 賛助会員(5社)

平成28年10月31日 イー・エス・アイ・ジャパン株式会社

平成29年3月31日 株式会社オプトクエスト

平成29年3月31日 株式会社スミテック

平成29年3月31日 ティー・エイ・インスツルメント・ジャパン株式会社

平成29年3月31日 DHL サプライチェーン株式会社

3. 会社名変更(1社)

(1) 正会員(1社)

平成28年10月1日 新) 昭光サイエンス株式会社

旧) 昭光サイエンティフィック株式会社

4. 会員資格移行 (1社)

(1) 正会員(1社)

平成28年4月1日 日立アロカメディカル株式会社

⇒株式会社日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット

分析システム事業部 医用分析システム技術部

別紙2 一般社団法人日本分析機器工業会役員名簿

平成29年3月31日現在

会長	栗原権右衛門	日本電子株式会社	代表取締役社長
副会長	堀場 厚	株式会社堀場製作所	代表取締役会長兼社長
副会長	中本 晃	株式会社島津製作所	代表取締役会長
副会長	池田 俊幸	株式会社日立ハイテクノロジーズ	代表執行役 執行役専務
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会	
理事	赤沢 真一	東亜ディーケーケー株式会社	常務取締役
理事	岸本 京子	京都電子工業株式会社	代表取締役社長
理事	栗原 浩	株式会社三菱化学アパリテック	代表取締役社長
理事	合田 豊治	アジレント・テクノロジー株式会社	代表取締役社長
理事	志村 晶	株式会社リガク	代表取締役社長
理事	中村 敏樹	日本分光株式会社	代表取締役社長
理事	和田 直也	バックマン・コールター株式会社	品質薬事統括部門長
監事	加藤 英夫	特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会	事務局長
監事	小林 久悦	理研計器株式会社	代表取締役社長
監事	長見 善博	ジエールイェンス株式会社	代表取締役社長
相談役	服部 重彦	株式会社島津製作所	相談役

別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	8回
JASIS 中期戦略検討特別委員会	8回
ライフサイエンス市場研究会	7回
2. 技術委員会	12回
企画運営小委員会	12回
3. 環境委員会	12回
4. 労務委員会	4回
5. 知的財産委員会	5回
実務・調査小委員会	10回
6. 国際委員会	8回
輸出管理小委員会	4回
7. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	3回
薬機法小委員会	5回
標準・規格小委員会	5回
安全・EMC 規格小委員会	2回
IVD-MD 会議((一社)日本臨床検査薬協会との会合)	4回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	7回
医療機器国際小委員会	6回
動物医療機器小委員会	6回
8. 広報委員会	12回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回

9. 展示会委員会	12回
展示小委員会	12回
展示広報小委員会	12回
新技術説明会・OSF小委員会	10回
プロジェクト小委員会	12回
10. 統計委員会	4回
11. 委託事業関係委員会	
JISK0123 ガスクロマトグラフィー質量分析通則原案作成委員会	6回

以上

別紙4 委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

平成28年度 常設委員会正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名 (所属)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画戦略会議 ・ JASIS 中期戦略検討特別委員会 ・ ライフサイエンス市場研究会 	正	禰寝義人 (日立ハイテクノロジーズ)
	副	森安里志 (島津製作所)
	〃	大井泉 (日本電子)
	主査	大井泉 (日本電子)
	主査	神田浩幸 (リガク)
	※	森安里志 (※ファシリテーター)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術委員会 ・ 企画運営小委員会 ・ JASIS コンファレンス小委員会 ・ グローバル交流小委員会 ・ 技術普及調査小委員会 ・ ドキュメント整備小委員会 	正	杉沢寿志 (日本電子)
	副	内田稔 (日立ハイテクノロジーズ)
	〃	野村聡 (堀場製作所)
	〃	西埜誠 (島津製作所)
	〃	八谷宏光 (東亜ディーケーケー)
	主査	杉沢寿志
	〃	内田稔
〃	野村聡	
〃	西埜誠	
〃	八谷宏光	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境委員会 ・ 環境規制小委員会 ・ 国際規制小委員会 	正	河合英治 (日本電子)
	副	中川勝博 (島津製作所)
	〃	中川 健 (堀場製作所)
	主査	河合英治
	〃	河合英治
<ul style="list-style-type: none"> ・ 労務委員会 	正	田崎克也 (アジレント・テクノロジー)
	副	坂口亨 (京都電子工業)
	〃	代見敬一郎 (東亜ディーケーケー)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産委員会 ・ 実務・調査小委員会 	正	井上二三夫 (シスメックス)
	副	中野博司 (島津製作所)
	〃	鎌田世津子 (東亜ディーケーケー)
		⇒坂谷忠夫 (リガク)
	主査	生沢誠幸 (日本電子)

<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会 ・輸出管理小委員会 	正 副 〃 主査	川本健志（島津製作所） 坂西祥一（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレントテクノロジー） 原圃 聡（島津製作所）
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器委員会 ・薬事法小委員会 ・標準・規格小委員会 ・安全・EMC 小委員会 ・医療機器業公正取引協議会分析工支部 ・医療機器国際小委員会 ・動物医療機器小委員会 ・IVD-MD 地位向上委員会 	正 副 〃 主査 〃 〃 正 主査 〃 〃	飯泉紀子（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） 河端俊彦（東芝メディカルシステムズ） 野上信吾（ベックマン・コールター） 川中士郎（日本電子） 関口幸児（パナソニックヘルスケア） 船橋真人（富士フィルム） 井口晃弘（日立ハイテクノロジーズ）
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会 ・会誌編纂小委員会 ・ホームページ小委員会 ・プレスリリース小委員会 	正 副 〃 〃 主査 〃 〃	前野晃男（堀場製作所） 真鍋伸一（島津製作所） 石塚隆司（東亜ディーケーケー） 伊藤裕基（日立ハイテクノロジーズ） 石塚隆司 真鍋伸一 伊藤裕基
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会委員会 ・展示小委員会 ・展示広報小委員会 ・新技術説明会・OSF 小委員会 ・プロジェクト小委員会 	正 副 〃 〃 〃 主査 〃 〃 〃	野元政男（日本電子）⇒長谷川武義（堀場製作所） 五十嵐真人（日立ハイテクノロジーズ） 長谷川武義（堀場製作所）⇒野元政男（日本電子） 金子静知（メルク） 若尾豪（島津製作所） 若尾豪 金子静知 長谷川武義⇒野元政男 五十嵐真人
<ul style="list-style-type: none"> ・統計委員会 ・受注統計小委員会 	正 主査	伊藤憲治（日立ハイテクサイエンス） 川本健志

別紙5 参加している他団体事業

1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語及び信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) 環境関係 JIS 委員会 (一社) 日本環境測定分析協会
- (4) 用語関係 JIS 委員会 (公社) 日本分析化学会

2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

- (1) ISO 関係委員会
 - ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社) 日本ゴム工業会
 - ②TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
 - ③TC146 (大気 of 質) (一社) 産業環境管理協会
 - ④TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
 - ⑤TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) 日本臨床検査標準協議会
 - ⑥TC229 (ナノテクノロジー) (一財) 日本規格協会
- (2) I E C 関係委員会
 - ①TC65/SC65 A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
 - ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (委員会)
- (6) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (一財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) 日本医師会 (精度管理委員会)
- (10) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (11) 日本臨床検査薬協会 (理事会、委員会)